

平成27年1月15日

## 「ロータリー理解推進月間」について

先週の1月7日にフランスのパリで連続テロ事件が発生しましたことは皆さんご存じだろうと思います。1つは新聞社襲撃事件、もう一つは婦人警官射殺事件です。この事件で13名が射殺され、特殊部隊の突入で4名の犠牲者が出ました。

フランスでは人口の7%がイスラム教徒だそうです。海外旅行にも安心して行けない時代になり、旅行は国内旅行が最も安全だと思います。

ロータリーでは1月は「ロータリー理解推進月間」に指定しています。これは対外的には広報活動を通じて、対内的にはロータリー情報集会、討論、セミナーを通じてロータリーを推進するものです。

ロータリーでは「奉仕の理想」という言葉がよく使われます。よく使うのですが、意味がよく分からない言葉だと思います。英語では“Ideal of Service”といいます。

ロータリーの目的や重要なロータリーの文献にもこの「奉仕の理想（理念）」が頻繁に使用されており、日本では同名のロータリーソングとしてお馴染みの言葉になっています。

しかし、ロータリーの公式文献にはこれをはっきりと定義した文章はありませんが、これをいかに適用するかを示した唯一のドキュメントが決議23-34です。

決議23-34には「ロータリーとは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—超我の奉仕“Service above Self”の哲学であり、最もよく奉仕する者、最も多く報いられる“*He profits most who serves best*”という実践倫理に基づくものである」と具体的な補足説明がなされており、ロータリーの奉仕理念は、ロータリーの二つのモットーに示されたものと思われる。

国際ロータリーの組織化に貢献した、チェスレー・ペリーは「奉仕の理想（理念）」について、個人的見解として、唯一、Ideal of Service について記述しているものがあります。

それは全世界のロータリークラブの所在・連絡先が記載された会員名簿である“Official Directory”において、「何処においてもロータリークラブにも、一つの基本となる理念を大切にしている、それは他人を思いやり、そして他人のために尽くすことである」と説明しています。

ポール・ハリスは「奉仕の理想（理念）」とは、ものの過程の最初に奉仕を置くものである。奉仕の理想（理念）を標榜する者は受けるべき物質においてではなく、まず与えるべき奉仕に着眼すべきである。物質を眼前に置けば見通しは困難となる。そしてその最も愚かな方法は金銭に集中することである。欲深い行為は奉仕の理想とは両立しない。」と説明しています。

ロータリーは基本的には寄付団体でも、慈善団体でもありません。また、特定の事業を標榜

するボランティア団体でもありません。奉仕を志す人の集まりです。

如何に世の中が変わろうとも、ロータリアンがロータリー運動の真の目的、すなわち例会での親睦を大切にして奉仕の心の涵養を忘れないで、日常万般ばんばんの行動する限り、ロータリー運動は不滅であるといわれています。

ロータリーの奉仕の理想は、どこか遠くにあって仰ぎ見るものではなく、自分の個人生活・職業生活・社会生活の中に実現すべきものだと思います。